

【注意事項】 統合開発環境 e² studio

概要

統合開発環境 e² studio V6.0.0 および V6.1.0 のご使用上の注意事項を連絡します。

1. C ソースファイル毎にビルドオプションを指定した RL78 ファミリ C コンパイラパッケージ（以降 CC-RL）用プロジェクトのビルド実行に関する注意事項

1. C ソースファイル毎にビルドオプションを指定した CC-RL 用プロジェクトのビルド実行に関する注意事項

1.1 該当製品

e² studio V6.0.0 および V6.1.0

1.2 内容

ヘッダファイルが更新されると、それを参照する C ソースファイルはプロジェクトビルドの実行時にコンパイルされます。しかし、C ソースファイル毎のビルドオプションを指定していると、プロジェクトビルドを行っても C ソースファイルがコンパイルされない場合があります。

1.3 発生条件

以下の条件(a)~(c)をすべて満たす場合、C ソースファイルがコンパイルされない場合があります。

- (a) CC-RL 用プロジェクトで、C ソースファイル毎にビルドオプションが指定されている。なお、アセンブラソースにオプションを指定した場合は該当しません。
- (b) (a)に該当する C ソースファイルまたはヘッダファイルにコンパイラ定義済みマクロ（例: `__CCRL__`^(注)）を真と判定する条件文があり、その文に「`#include`」がある。

<影響を受ける記述例>

```
#ifdef __CCRL__
#include "defined_for_ccrl.h" /* to be included in positive condition */
#endif
```

<影響を受けない記述例（ヘッダファイルが更新されてもコンパイルの必要がない場合）>

```
#ifndef __CCRL__
#include "defined_not_for_ccrl.h" /* to be included in negative condition */
#endif
```

- (c) 上記(b)の真の節にあるヘッダファイルを編集して、ビルドを実行する。この際、`#include` 文を記述したソースコードが含まれる C ソースファイルがコンパイルされない場合があります。

注：その他のコンパイラ定義済みマクロはコンパイラ製品のヘルプ「基本言語仕様」→「処理系依存」→「あらかじめ定義されたマクロ名」に記載されています。

1.4 回避策

上記 1.3 項の発生条件に該当するヘッダファイル等を更新した際は、プロジェクトビルドの前にクリーンを行ってください。クリーンを行ってから「プロジェクトのビルド」を実行することにより全てのソースコードがコンパイルされ、本件の問題が回避できます。

プロジェクトのクリーン手順：

- 手順 1. プロジェクトメニューの「クリーン...」またはプロジェクト・エクスプローラのコンテキストメニューの「プロジェクトをクリーンする」のどちらかを選択
- 手順 2. 「プロジェクトのビルド」を実行

1.5 恒久対策

e² studio V6.2.0 で改修します。（1月22日公開予定）

詳細は RENESAS TOOL NEWS（資料番号 R20TS0267JJ0100）をご参照ください。

<https://www.renesas.com/search/keyword-search.html#genre=document&q=r20ts0267>

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2018.01.16	-	新規発行

ルネサス エレクトロニクス株式会社
 〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先
<https://www.renesas.com/contact/>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。